

(お 知 ら せ)

2019年5月20日
中国電力株式会社
岡 山 支 社

新成羽川ダムの治水協力に関する検討結果について

当社は、平成30年7月豪雨により高梁川水系において甚大な洪水被害が発生したことを踏まえて「新成羽川ダム他操作に関する技術検討会」(委員長:角 哲也 京都大学教授)を設置し(2019年1月16日 お知らせ済み)、事前放流実施の可能性、諸条件、効果、実施に伴うリスクと対応等について、検証・検討を重ねてきました。この度、以下のとおり検討結果がとりまとめられましたので、お知らせします。

検討結果については、国土交通省・岡山県主催の「高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」へ報告するとともに、河川管理者、関係自治体のご理解とご協力を得つつ、本年の梅雨期からの実施に向け、準備を進めてまいります。

【主な検討内容と結果】

○平成30年7月豪雨時の検証

- ・ダム操作は、国の承認を得た「ダム操作規程」に則り、適正であったことを確認した。

○事前放流の実施可能性と効果

- ・新成羽川発電所(混合揚水式)の特徴である大きな発電放流能力を活用して、ダム水位を低下させ、空き容量を確保することにより、一定の効果が期待できることを確認した。

○事前放流開始の条件

- ・一定の規模以上の洪水が想定される、積算雨量110mmを超えることが予想された場合に実施する。

○事前放流実施による効果の限界とリスク

- ・長時間連続して発生する大洪水では事前放流の効果に限界がある。
- ・事前放流は晴天時に実施する可能性があり、河川の水位上昇に伴う入川者への警告に万全を期す必要がある。
- ・降雨予測が外れ、ダムの水位が回復しない場合は渇水リスクが高まる可能性がある。

○情報の公開

- ・インターネットでダム情報の公開を予定している。

以 上

(添付資料) 新成羽川ダムにおける治水協力について

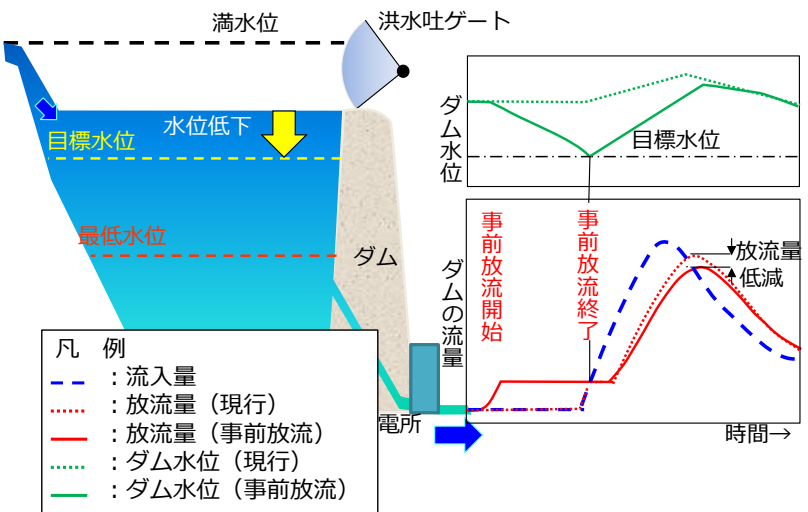
- 平成30年7月豪雨において、高梁川水系全域で甚大な洪水被害が発生し、地元自治体等から高梁川水系最大規模である新成羽川ダムの治水協力について強い要請を受けたことを踏まえ、当社としてどのような治水協力ができるか、学識経験者、河川管理者、下流利水者、当社を委員とする「新成羽川ダム他の操作に関する技術検討会」を立ち上げ、その実施可能性について治水と利水のバランスにも配慮しつつ慎重に検討を重ねた結果、以下に示す事前放流を中心とした治水協力を本年出水期から実施することとしたい。
- この実施内容は現時点で考えられる最大限の協力と考えており、また、事前放流は、河川管理者・地元自治体と一体となって実施する必要がある。

①事前放流の概要

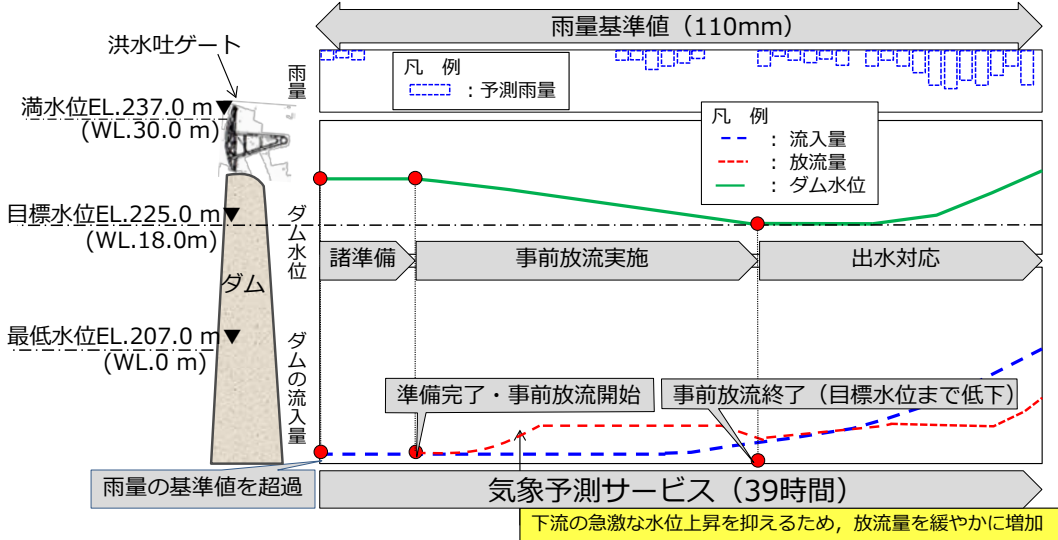
- 事前放流は河川整備が整うまでの暫定運用とする。
- 事前放流は、以下の手順で実施する。
 - ① 気象予測サービス(39時間先まで)で積算雨量が110 mmを超えると予測された場合、事前放流を開始する。
 - ② 新成羽川発電所の発電放流(約400 m³/s)を利用して事前放流を行う。
 - ③ 目標水位EL.225.0 m(WL. 18.0 m^{*})に向け可能な限り、ダム水位を低下させる。

※目標水位はこれ以下のダム水位となると渇水リスクが高まることから、下流利水者と渇水対策について協議を開始する水位とした。

■事前放流概要

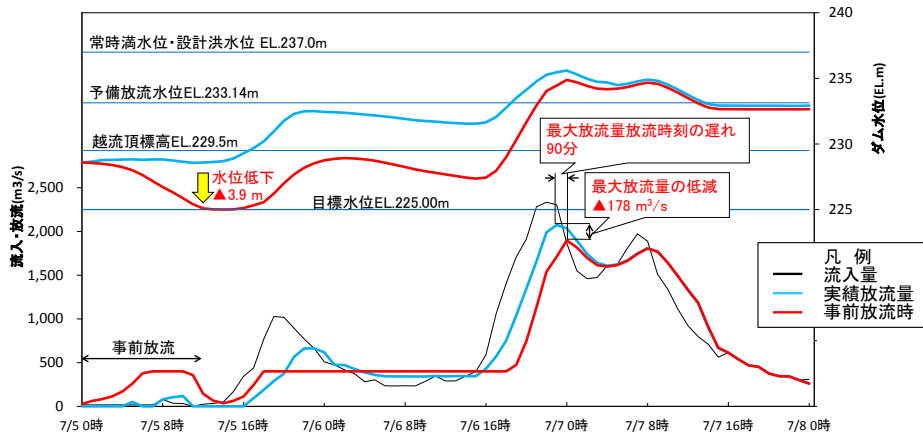


■事前放流実施方法



②事前放流による効果

- 平成30年7月豪雨を対象に事前放流を実施した場合、最大放流量の低減、下流河川水位の低下に一定の効果があることを確認した。
- 事前放流により、ダム水位を目標水位EL.225.0 m (WL.18.0 m)まで低下させることができ、確保できる空き容量は河本ダムの有効貯水容量に匹敵する1,100万 m³になる。
- 長期間連続して発生する大きな洪水では事前放流の効果には限界があることも確認した。

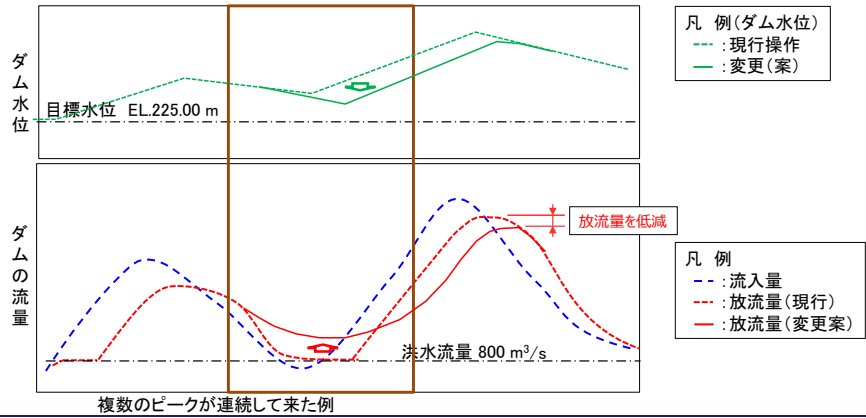


項目	洪水前ダム水位(EL.m)	放流量(一山目)(m ³ /s)	放流量(二山目)(m ³ /s)	最大放流量放流時刻
実績	228.9	664	2,074	7/6 22:30
事前放流時	225.0(▲3.9)	400(▲264)	1,896(▲178)	7/7 0:00(+90分)

項目	河川水位最大値(EL.m)		
	広瀬	日羽	酒津
実績	55.76	35.30	11.15
事前放流時	55.51(▲0.25)	35.09(▲0.21)	11.03(▲0.12)

③現行操作規程変更による放流量低減への取り組み

事前放流に加え、洪水ピーク後の再増加に対し、放流量を抑えず、可能な限りダム水位を低下させて2山目を迎えることで、放流量の低減を図れるよう、操作規程の変更について、河川管理者と協議を行っている。



④事前放流によるリスクと対応方針

- 事前放流は晴天時に実施する可能性も高く、入川者に対する立ち入り禁止や巡回警告など危害防止措置に万全を期す必要がある。
- 事前放流を実施したものの予測が外れ、ダム水位が回復しない場合は、濁水リスクが高まるものと考えられる。
- これらのリスクに対しては、河川管理者、関係自治体、当社が一体となって対応することとしている。

⑤情報公開・情報伝達の改善に関する取り組み

- 新成羽川ダムの情報をインターネット上で閲覧できるよう、国土交通省中国地方整備局と協議を進めており、本年の梅雨時期から公開を予定している。
- 関係機関への情報伝達の改善に関して、伝達方法、通知内容等について、関係先と協議を進めている。